

論説

特集：鉄道と観光 その3

● 鉄道と観光とのかかわり

最明 仁

東日本旅客鉄道株式会社 経営企画部 次長

鉄道による大量輸送の開始とともに、日本人の旅行スタイルは劇的な変化を遂げた。1872年に日本最初の鉄道が開業し、線路網は次第に拡張したが、初期の鉄道の運賃は高額で、人々は気軽に鉄道を利用することが出来なかった。この状況を打破し、乗客を増やすために鉄道会社は時刻表、パンフレット等を使い、沿線への観光客誘致に努めた。本稿は、日本の鉄道と観光の歴史の概要、そして国鉄とJRの観光開発に向けた施策について述べる。

● 「非日常性」を運んだ列車たち：

東京付近における私鉄とその観光輸送

加藤 新一

帝京大学経済学部 准教授

東京からおよそ100km離れた山中に、箱根、日光、富士山、伊豆半島には有名な観光地と温泉がある。特に日光と箱根は、鉄道の普及によって東京から日帰りでも行ける観光地として人気を集めるようになった。本稿は、これらの四地域の観光と深く関わってきた私鉄会社である東武鉄道、小田急電鉄、富士急行、伊豆急行の観光客誘致の歩みを紹介する。

● 嵯峨野観光鉄道小史

長谷川 一彦

嵯峨野観光鉄道株式会社 代表取締役社長

嵯峨野観光鉄道は、1991年に京都近郊に開業した観光鉄道である。開業当初は成功の見込みが薄いと思われていたが、開業から19年経過した現在、観光専用トロッコ列車として成功を収めている。開業当初からの歴史を社長の視点から紹介する。

● 富士急行と富士山周辺地域の観光

石井 謙一

富士急行株式会社 交通事業部 鉄道担当課長

富士急行は、富士山の近くを走行する26.6kmの路線である。同線は、沿線地域間を結ぶ役割を負っているだけでなく、主に富士山登山者など観光路線としても重要な路線である。しかし、高速道路料金の低額化、及び不況などの影響により、乗客数は減少の傾向である。本稿は、富士急行線とその沿線地域の特徴、及び乗客を増やすために取られている数々の施策を紹介する。

日本鉄道史上のブレイクスルー 4

○ 電気車両の国産化と日本独自の技術開発

望月 旭

日本鉄道車両機械技術協会 顧問

138年の日本の鉄道の歴史に残る技術面の発展飛躍(ブレイクスルー)に焦点を当て、一般読者に向けてわかりやすく解説するシリーズの第4回目。今回は、電気車両の国産化と日本独自の技術開発について論じる。

もうひとつの視点から

○ 日本の電車文化：車内社会学考

ジョン・クラマー

日本に長年滞在している英国人社会学者である著者にとって、日本の通勤電車は日本の社会の縮図であり、社会の状況や変化を見せてくれる「窓」だという。通勤電車車内の人間模様を「社会学的な見地」で観察する。

トピックス

○ 2009年10月から12月

写真特集

○ 空港連絡鉄道